



少数派運動の真実

自民党総裁選の9人候補者の討論会が連日テレビ、新聞で流れています。彼らの言説に真実が感じられません。憲法9条に自衛隊明記、解雇規制の緩和など我々労働者にとつてますます厳しい情勢が作り出されていく予感があります。私たちも腹を据えて闘う覚悟をしていかなければなりません。

三池友の会の川野房雄さんは、「三池の大闘争も原点は私の経験からも『少数者運動』でした。その少数者運動を担った方々は、労働者の誇りと自覚をもって学習運動に鍛えられた労働者の圧倒的多数の団結で、巨大な三井資本に立ち向かい、階級的な労働運動を作り上げてきました。」(本誌2021年6月号「灯台」と言つて、少数派運動に誇りを持って教えてくれました。川野さんの口癖「死ぬまで労働者ばい」という言葉に労働者の誇りが感じられました。



甲府地域友の会の加地章郎さんは、「私たちは少数派だが、少数派が正しいことは、労働派からも歴史的に実証されています。しっかりと理論を持つこと、歴史観を持つことが大事です。今は少数派だけれども歴史的に私たちが正しかったと言われる運動だという確信を持ちましょう。少数派にこそ真理があります。それを広げていかななくてはなりません。」(2021年山梨県協旗開き)と言っています。

何事も出発点は少数派運動から始まりました。少数派運動に誇りをもって次世代につなげていきましょう。

川野さんは今年8月に94歳で、加地さんは6月に96歳で逝去されました。お二人からは本当に多くを学ばせていただきました。ご冥福をお祈りいたします。

労働大学企画編集委員 小田切 博